キリスト教委員会のHP(http://rakuno-ce.org)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

朝、部屋を出て、厚別駅から電車に乗ります。大麻駅南口を降り、学園へ歩き始めると、少しずつ心が整っていきます。「謙虚に。まだ何もできていない。だから現場を歩くんだ。声を聴くんだ」。そう自分に語りかけます。自分のために道のゴミを拾い、出会うすべての人に挨拶をして学園に入ります。

詩編46は、世界が揺らぐただ中で、神が共におられると謳います。そして、「力を捨てよ、知れ／わたしは神」と告げます。これは、戦いをやめさせる神の言葉です。私はそこに、自分の力だけで何とかしようとする肩の力を抜き、神の前で立ち止まるようにとの招きも聴きます。

「まだ何もできていない」という思いが、焦りになる日もあります。それでも、挨拶が返ってくる。立ち止まれば、誰かの声が聴こえる。その小さな出会いから、今日取り組むべきことが見えてきます。私一人の考えを超えて、仲間と共に道を見いだしていく。そのための朝の歩みなのだと思います。

アドヴェントは、私たちのもとに来てくださる主を待ち望む時です。迷いを抱える私たちにも、「真理」は共にいてくださる。その約束に支えられ、今日も顔を上げて、隣の人と挨拶を交わしながら、希望の一歩を踏み出していきます。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう／クリスマスに一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員有志による聖歌隊が合唱をしています。12月22日（火）のクリスマス礼拝ではキャロルやハレルヤを歌います。歌ってみたい方は礼拝の前と後にオルガン前の練習にご参加ください。

【アドヴェント（待降節）】

今週からアドヴェント（待降節）が始まりました。１週目に１本目のロウソクに火が灯され、４本すべてのロウソクに火が灯るとクリスマスです。クリスマスに備えつつ、平和をもたらすイエスの誕生を祝いましょう。

【次回の大学礼拝（アドヴェント第２週）】2026年12月8日（火）10時40分
聖　書：ヨハネによる福音書６章60–65節
奨　励：「クリスマスの物語に」小林昭博（宗教主任）
讃美歌：　21–175（わが心は）、1–267（ああベツレヘムよ）

【前回の大学礼拝】2026年11月24日（火）
学生：83名　教職員：7名　合計：90名

【大学礼拝週報】2026年度 第25号（後学期第10号）

2026年12月1日（火）午前10時40分
酪農学園大学 黒澤記念講堂

【アドヴェント（待降節）第１週礼拝】

司　　式　小林昭博（宗教主任・循環農学類教授）
奏　　楽　佐藤理恵（日本基督教団野幌教会オルガニスト）
讃美指導　相原晴伴（農環境情報学類長・教授）

前　奏	来たりたまえわれらの主よ（高浪晋一作曲）
讃美歌	1–94番（久しく待ちにし）
聖　書	詩編46編2–3節
さんび	酪農学園大学聖歌隊
奨　励	「朝の道で心を整える」　髙島英也（酪農学園理事長）
祈　り	
讃美歌	21–259（いそぎ来たれ、主にある民）
報　告	
後　奏	主を待ち望むアドヴェント（ロール作曲／高浪編曲）

【本日の聖書】詩編46編2–3節（新共同訳）
2 神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。
3 わたしたちは決して恐れない
地が姿を変え
山々が揺らいで海の中に移るとも

【奨励】「朝の道で心を整え」

学園の改革を進める中で、私はいつも迷っています。これでよいのか。大切なことを見落としてはいないか。理事長という立場にあっても、確信ばかりを持って歩いているわけではありません。